
ベランダからどうぞ！

高倉亜季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ベルンダからどうぞ！

【Zコード】

Z0503D

【作者名】

高倉里季

【あらすじ】

学校から帰ると一人で留守番しているタカ。お気に入りは窓の前で寝そべって空を見ること。そのベルンダからある日突然訪問者があるなんて・・・

第1章 いつも留守番

四角い窓から見上げる窓は、こつだつて僕だけのものと思えた。いつものように学校から帰ってきて、いつものように床に寝そべって見上げれば、手の届きそうな気がして…。

「腹へつたなあ。ママが帰つてくるまでもたないよー。・・・あの雲、綿菓子みたいだな。夏祭りで食べた綿菓子つまかったよなあ。」

僕は、皿をつぶつて夏祭りでの出来事を思い出していた。

「・・・そういえば、あのばあちゃんの近くに住んでた女の子、名前なんだっけか?」

あの時は、忘れそうもないほど仲良く遊んでいたような気がするのに、今はなんだかあの子の顔もおぼろげだ。

「ん?」

なんか物音がしたような気がした。今日せとぐく早くママの仕事が終わつたんだなと思い、起き上がろうとしたら・・・突然、目の前に小さな女の子が現れた。・・・それに浮いてる? 心臓が口から飛び出しそうになるつてきつとこつことだつたんだ。僕はびっくりしきておまえは誰だつて聞く前にこつと言つてしまつた。

「君、どうやって浮いてるの?」女の子はこつこつ笑つてベランダを指さした。

(ああ、そつか。この子はベランダからはこつてきたんだな。)

とつあえず落ち着こつと思ひ、僕は深呼吸をしてから本題に入ることにした。

「君は、誰?」女の子は空中でクルクル楽しそうに回つてゐる。「やつと会えたね。私のこと覚えてる?」僕が首を横にふると女の子は少し淋しそうな顔したがすぐに笑顔に戻り、「私はずっと君

に会いたいと思つていたんだよ。でもね、今日は会こにきただけじゃないの。おばば様が君じゃなきゃダメだつて言つたよ。村の男の子じゃダメなんですつて。」おねがい髪をゆりゆり揺らしながら女子は早口で言つた。

「い、いつたいなんのことか。僕には君の言つてることがなんのことだかさっぱりだよ。」僕の頭の中は突然入ってきた理解不能な情報でグルグル混乱し始めていた。おばば様がなんだつて？村の男の子がなんだつて？この子の言つてること聞いてたら僕はこの子に会つたことがあるらしいけど……でも僕はそんなの全然覚えがないしどうして？女子がふわりと着地した。「とにかく私と一緒に来てくれる？大丈夫よ、怖いことなんてないわ。」

僕はちょっとムツとした。こんな小さな女の子になだめられてるみたいだ。「来てと言われたつてダメだよ。だつて僕は今、留守番してるんだから。ママが帰つてくるまで家にいなきゃいけないんだよ。……でも勘違いするなよ。僕は怖いから行けないつてわけじゃないからね。」女子はニッコリ笑つて言つた。「あら、留守番のことをなら大丈夫よ。私任せといて！」女子はそう言つなりまた浮かび上がり、そして僕の腕を軽く引っ張つた。すると彼女は少し僕の腕に触れただけのようを感じたのに僕の体までが浮かび上がつていつた。

「ちよ、ちよっと待つてよ。いつたいどこへ連れていいくつもりなのさつ。つていうかなんで浮いてるのさつ。」もう僕は何がなんだかわからない。

「大丈夫よ。怖くないつて言つたでしょ。私の役目は君を村のおばば様のところまで連れて行くことなのよ。」そう言つと女子の子はいつのまにか開いていた窓からベランダに飛び出した。もちろん浮かんだまでだ。そして僕も浮かんでいた。……よく考えたらウチはマンションの12階なんだ！僕は顔から血の気が引いていくのを感じた。

「ギヤーー！やめろ、やめろー！落ちたら死んじゃうんだぞー！」

僕は必死で女の子にしがみついた。女の子はプツと吹き出して「大丈夫だって言つてるのに」「そう言つて僕の腕から手を離してしまつた。・・・落ちるっ！僕はぎゅっと目をつぶつた。・・・でも、浮いたままだ。まるで、ピーターパンみたいだ。風に揺られてフワフワしながら、僕がポツカリ口を開けていると女の子が言った。

「私の名前はセツ。じゃあ行くわよ、タカくん。」

とりあえず、彼女についていくしかないらしい。だつてもう僕にはどうやつてウチのベランダに戻ればいいのかわからない。あんなに遠くなつてしまつては・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0503d/>

ベランダからどうぞ！

2010年12月17日02時48分発行